

国立大学法人 長岡技術科学大学
令和3年度第4回経営協議会議事要旨

- 日 時 令和3年10月14日（木）14時00分～15時15分
【Zoomミーティングによるオンライン会議】
- 出席者 鎌土議長、天羽委員、荒木委員、池田委員、小花委員、合田委員、関委員、谷口委員、
トラン委員、山本委員、和田委員、梅田委員、秋山委員、武田委員、高橋委員、井原
委員（議事の表決委任による出席 磯田委員）
- 陪席者 日下部監事、野本監事、大石附属図書館長
- 事務局 事務局次長（総務担当）、事務局次長（特命担当）、大学戦略課長、財務課長、監査
室長、企画・広報室専門員、総務課専門員、財務課専門員、企画・広報室専門職員、
財務課予算係長、総務課総務係長、総務係員

議事に先立ち、鎌土議長から令和3年度第2回議事要旨(案)、令和3年度第3回議事要旨(案)について説明があり、案のとおり承認した。

審議事項

1. 国立大学法人ガバナンス・コードにかかる適合状況等の報告について

秋山委員から、資料1-1、資料1-2に基づき 7月開催の本協議会での審議内容を基に作成並びに監事による確認を行った旨の説明があり、審議の結果、これを承認した。

主な質疑応答は以下のとおり。（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）

- 「外国の大学・機関も含めクロスアポイントメント制度を推進し、外部から優れた人材の登用と多様性の確保に努めている。」とあるが、具体的にどのようなことか。
- ツイニングプログラムを行っている海外の大学の3名の教員が本学の業務を50%、外国の大学業務50%でクロスアポイントメント制度を適用して実施している。ツイニングプログラムで本学に入学する学生もいるので学生の支援、メンターや講義も実施している。
- 原則1-1にある創設の趣旨、理念、将来ビジョン案について、11月開催の次回経営協議会に提示し、意見をいただきたい。

報告事項

1. 令和2事業年度財務諸表の承認について

秋山委員から資料2に基づき、報告があった。

2. 令和4年度概算要求について

秋山委員、梅田委員並びに和田委員から資料3に基づき、報告があった。

《技術革新フロンティア教育センター整備事業》

○工学系の中に経営とか商品企画を担当できる教員のイメージはあるのか。

●クロスアポイントメント制度も含めて企業の方に入ってもらいたいと思っている。

- 教育研究組織の教員の配置状況で新規採用の中にクロスアポイント制度で採用される人が含まれるのか。
- それも含まれる。第4期中期目標・中期計画の中でも記載したが、若い教員に企業の経験を積ませることも考えられる。クロスアポイント制度による企業への派遣、キャリアブレイクなど様々な制度があるので、これを利用して企業に派遣できるような体制も整えたい。
- 初めて教壇に立つ実務家教員の養成プログラムがあるが、この整備事業でそのようなプログラムを利用する予定はあるのか。
- そういうものも考えておかないといけないと思う。
企業からの教員に教育に携わっていただくので一緒に進めていきたい。
実務家教員の教育に関することは、そのようなプログラムがあれば参画も考えていく。
システム安全工学専攻でも実務家教員の実績があるので参考にしながら進めたい。
- 企業の立場からすると、このような人材は将来的にどんどん出てきていただくと戦力として期待できる。この5年を見てもAI、DXなど新しいツールや考え方が出てきて、今までは大企業だけが導入していたが、今は中小企業もAI、DXを積極的に進めているので、特定の分野ができる人材より、ある程度いろんな知識がある人が求められる。課題はあると思うが積極的に進めていただきたい。

《数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進》

- 高専も含めて、学校の先生にプロモーションはやっているのか
- 来年からの改組において、高専からの編入学生については令和6年入学になるが、高専の3年生も含め改組の内容、メジャー、マイナー制、技術革新フロンティアコースなどをPRしていく。
- 社会人に対するリカレント教育、学び直しとセットで考えているか。
- 第4期中期目標・中期計画でも掲げている。
- リカレント教育という意味では、数理・データサイエンスの社会人向け教育コンテンツを新たに整備し、今年度内には、システムも含めて提供できるよう進めている。

3. その他

鎌土議長から NHK学生ロボコン2021で本学の学生チームが優勝し、12月開催の世界大会ABUアジア・太平洋ロボットコンテストに出場する旨報告があった。

以上